

# 自治医科大学附属病院と下野市の 自治医科大学附属病院と下野市の2025年

## 自治医科大学附属病院と下野市

自治医科大学附属病院は1974年河内郡南河内町に開設され、栃木県南保健医療圏の中核病院として、下野市の皆さんの医療を支えています。

「医療圏」には一次保健医療圏、二次保健医療圏、三次保健医療圏があり、一次保健医療圏は身近な医療を提供する単位で、市町村を単位とすることが原則です。二次保健医療圏は救急医療やがん治療、周産期医療など日常生活圏で通常必要とされる医療の確保のための単位として設定されています。三次保健医療圏は原則的に都道府県が単位になります。

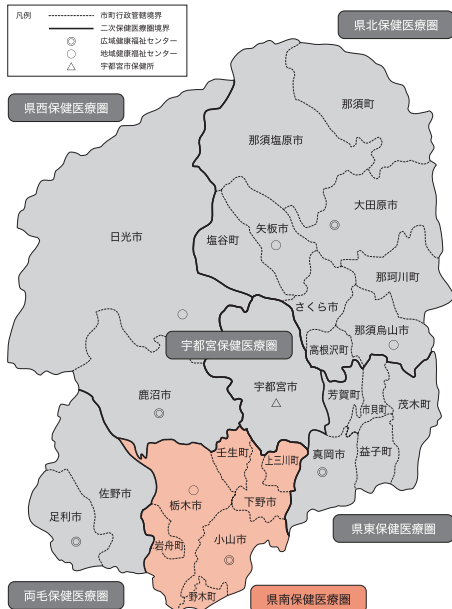
(図1)があり、下野市を含む県南保健医療圏は、人口が約48万人で、栃木県全体の24%を占めています。この医療圏には自治医科大学と壬生町の獨協医科大学があり、1,000床以上の大学病院が2つあるという極めて特殊な医療圏で、近隣医療圏からの患者流入が多いのが特徴です。

## 二次保健医療圏と救急医療圏

自治医科大学附属病院には、県東保健医療圏、宇都宮保健医療圏から多くの患者さんがいらつしやいます。それに加えて県外の保健医療圏からも受診者が増加しています(図2)。

二次保健医療圏には、重症救急症例のための三次救急医療機関(救命救急センター)が設定されています。県南保健医療圏は小山医療圏と栃木医療圏に分けられ、自治医科大学附属病院は小山医療圏(下野市、小山市、上三川町、野木町)の三次救急医療機関として年間約5,000台の救急車を受け入れています。その一方で、下野市は夜間・休日

■二次保健医療圏 圏域図(図1)



## 2025年の自治医科大学附属病院

診療を小山広域保健衛生組合に委託していますので、夜間・休日の軽い疾患の方は、新小山市市民病院にある夜間休日急患センターに受診いただくこととなります。このように、下野市では周辺の市町村から重症の患者さんを多く受け入れているにもかかわらず、軽症の患者さんには小山市で受診していただくという、少しねじれた状況にあります。

## 自治医科大学附属病院は、「他医療圏からの重症患者流入増加への対応」と「下野市の一次救急、二次救急医療制度の再構築」を今後10年の課題として取り組んでいきます。

厚生労働省は、2025年をめどに病床機能報告制度を実施し、高度急性期病院の整備を進めることを発表しました。これにより、病院ごとの病床機能を明確にし、都道府県の中でその役割分担を決定することが要求されます。

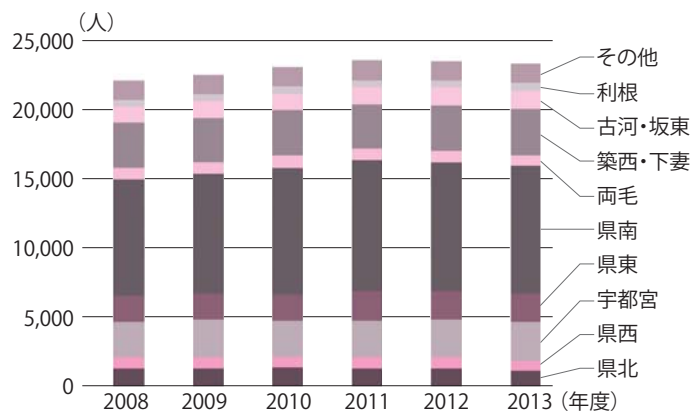
自治医科大学附属病院は引き続き高度急性期医療の担い手となるべく、診療能力の拡充を計画し、その一環として、外科系診療機能の充実、高度救命救急センター機能拡充のため、2018年4月開設を目標とした外科系新棟建設計画に着手しました。また、夜間・休日の軽症患者さんのための急患センターの設置について、話し合いを始めました。

2025年には現在よりも10%程度の医療需要が増加すること及び周辺医療圏からの患者流入の増加も想定されるため、現在の1.5倍程度の診療能力を持つことを目標としています。

そして、下野市・栃木県の医療を軽症から重症までしっかりと支えていく体制を整備していきます。下野市の皆さんにご意見いただくことは大変重要と考えていますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

自治医科大学附属病院 副病院長  
消化器外科 佐田 尚宏  
さた なおひろ

■自治医科大学附属病院における医療圏別入患者数の推移(図2)



しもつけクイズ

問1

第35回天平の花まつり(平成26年度)の来場者数は何人だったのでしょうか?  
①約5万人 ②約10万人 ③約20万人